

シャンティ山口 ニュースレター 第75号

発行:2010年4月15日/発行責任者:特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス: <http://www.shanti-yamaguchi.com/>



「地球環境基金助成事業」 専門家からの報告

シャンティ山口理事 安藤公門 (プロジェクトアドバイザー)

[地球環境基金]

タイ国北部農山村で生きた「肥溜めと畑の知恵」(報告書-1・抜粋)

省略掲載 [全12ページ]

3年間の衛生環境事業の包括的なまとめ

1、3年間の事業を通してつかんだものは、別紙でセーンサイ村を中心に報告した。

私たちは、そこで「手ごたえと核心点をつかんだ」と言える。

それは、①トイレ改善、水衛生環境事業の占める位置の大きさ②現地の村人の参加と協働③現地で入手できる資材と現地に適した工法の優越性④技術的な原理としての「肥溜めと畑の知恵」という自然浄化法の有効性・発展性⑤現地スタッフと現地の自立・自律的な展開のための素地の形成などに要約できる。

2、トイレと劣悪な衛生環境を日本の在来の自然浄化法の導入・工夫によって逆転的に「新しいモデル的な農村環境の改善へつなげることが可能」という根拠は、それぞれの村の人々の感想とアンケート回答にみることができる。

「トイレができてよかった」「もっと村の中に同じようなトイレをつくりたい」「ガスが使えるようになったのはすばらしい」「畑として肥料になることがうれしい」などである。私たちの当初予測だけでなく、それを越えて現地の実際の要望とかみ合っていることを確認出来る。

3、技術的なことでは、当初、私たちは日本の「肥溜めと畑の知恵」、現代の汚水処理用語では、「嫌気性発酵と土壌菌による分解」を日本の江戸時代独自のものととらえていた。

だが、実際に施工してみたとき、人の糞尿を衛生的に処理することと、さらに資源として再活用することは、形態は様々でも、人類普遍の自然とのかかわりではないかということに気付かされた。

とくに、タイでの実践でガス=燃料として糞尿を生かしたことは大きなエポックとなった。

循環型社会の未来的な可能性をつかんだと言っても言い過ぎではない。

この方向は、下水道で電気・動力・薬品、先端機材を使い、高度な維持管理作業を行ない、発生汚泥を産業廃棄物として多大なエネルギーを投じて処理し、さらに処理水は河川海洋に放流・廃棄している「先進国モデル」のあり方に大きな一石を投じることになるだろう。

4、課題も見つかった。

そのひとつは、公衆トイレ、学校、保育園・幼稚園・複合施設、それに個人の住宅などのそれぞれの施設に応じた利用から、それらを含めた「村全体の面的な設備」にどう発展させるか、日本に「農村集落排水」があるが、モン族の山岳地帯の農山村では独自のものを工夫する必要がある。

管路を極力短くすること、発生源で処理活用することである。

もうひとつは、農業との結びつきである。個別施設の便所では、畑（土壌処理部）が狭く固定されがちである。

肥料として耕作地・果樹園などに利用する工夫が必要になる。

窒素などの肥料成分と効果の研究蓄積も必要だ。

持続可能な農業技術との連携が不可欠である。

5、今後の展望

トイレの改善・衛生状態と生活の向上という課題から出発して、モン族の村づくり・農村開発の根幹に迫ることが可能になった。

現地スタッフ、村人の自主的な参加と自律を進めながら、さらに取り組みを強めてゆきたい。

3年間の事業への取り組みでそれがまったく可能であることを示し、その拠点を形成した。

次なる一歩へ踏み出すときである。

トイレ施工の実際

シャンティ山口によるタイ北部での施工実績を以下に示す。

- 1号 センサイ村・スーさん宅 住宅 2005年10月
- 2号 シャンティ学生寮 男子寮 2006年5月
- 3号 シャンティ学生寮 女子寮 2006年5月
- 4号 センサイ村
モン文化センター・図書館 2006年6月
- 5号 シャンティ学生寮豚舎ガス装置 2007年5月
- 6号 センサイ村 広場共同便所 2007年12月
(平成19年度地球環境基金助成事業)
- 7号 クンガムラン村保育園・共同便所 2008年12月
(平成20年度地球環境基金助成事業・今井記念海外協力基金給付事業)
- 8号 クンクワン中高等学校校舎 2009年3月
(平成20年度地球環境基金助成事業・今井記念海外協力基金給付事業)
- 9号 プラチャーパクディー村保育園 2009年12月
(平成21年度地球環境基金助成事業・今井記念海外協力基金給付事業)
- 10号 ホイプム村保育園 2010年3月
(平成21年度地球環境基金助成事業・今井記念海外協力基金給付事業)



掘削工事の様子。テントは雨よけ、日除け用。



保育所の台所で子ども達に囲まれて温かく燃えるメタンガス。

タイ国・北タイ地域エコトイレの普及に関連した

村の保健衛生への効果について（報告書-2・抜粋） 省略掲載[全 30 ページ]

1) 保健衛生面での考察

・発熱、頭痛、腹痛、下痢などの症状は、原因がはっきりとしないことも多いが、下痢などを引き起こす誘因となる生肉や生水の飲食といった生活習慣が高い割合で行われており、今後の取り組みが必要と考えられる。とくにホイブン村は発熱、下痢、頭痛などの症状の発生が多く、医療機関へのアクセスが他の村に比べて困難であるため、それらの予防的な対応を行っていく必要がある。

・結核の患者数が人口に比べると多くなっており、特に低所得や高齢のものほど感染のリスクは高くなるので、栄養状態の改善や他の疾患の悪化を防ぐなどの予防的対策を恒常的に行う必要がある。

・高血圧、糖尿病、心疾患、呼吸器疾患などの疾患が疾病の上位を占めている。これらは食生活や喫煙などの要因が影響している疾患であり、日常生活の改善が予防・改善には必要である。それらを考慮した保健・衛生教育なども今後必要である。

2) その他の考察

農業のみに頼った産業構造によって引き起こされている、低所得と就業率の低さがある。貧困は教育、医療など全ての面に影響を与える要因であるため、この課題に対する対策は重要である。農業専従のものの中でもタイの平均的な金額の所得を得ているものもあるので、今ある村の特性を生かして、貧困から脱却する方法を検討していくため、違いの比較や新しい分野の開拓などが必要である。

3) 今回の事業の評価として

今回の調査結果の考察として、NPO法人シャンティ山口がすでに介入し、支援している村4村と、これから介入していく村では、環境や人口等大きな違いもあり、それらの要因を取り除いたうえで効果を判断することは難しいといえる。また、一援助が村の保健や経済的な指標に影響を及ぼすのは、非常に長い時間と村人たち自身の変化が必要になってくる。

NPO法人シャンティ山口が村へもたらした成果としては、このアンケート調査を村の全ての世帯に実施できたということが端的に表しているように、村人との信頼関係と現地スタッフを育ててきたということがいえる。

村人との信頼としては、村人の意思を尊重することを基本とし、常に話し合いの中から援助の方向性を決めてきたこれまでの姿勢によると考える。将来をどうしていきたいのかを意識させ、それに寄り添うような関わりをしていくことで、援助によって依存的な関係をつくるのではなく、自立に向かうという対等な関係が築かれ、それは個別の意見聴取の言葉の中にもあらわれていると言える。

また、今回の調査の現地での調整や各村でのアンケート実施者の選定、指導、アンケート回収、データ入力などは、ほとんどが現地スタッフによって行われている。エコトイレ設置という事業の中での事務処理や相互調整、コーディネートなど、そういった経験の積み重ねから、自ら実行する力が備わってきたものを考えられる。

数値的な意味での変化・成果は、今回の調査をベースにして、経年的にみていくことで今後確認することができると思われる。

しかし、聞き取り調査の中でできてきたような、村人の変化はそういった調査で図ることはできない。数値としての成果とともに、精神的な成果も重要と考える。



家屋の外観



土間にある炊事場



トイレと水浴びをする建物



トイレ



食事の一例



食事の風景

—環境衛生活動募金にご協力をお願いします。—

2010.4.15 saeki